

平成30年度第1回「青少年育成に関する総合的支援をテーマとした共同部会」摘録

日 時 平成30年6月27日（水）19：00～21：00

場 所 キャンパスプラザ京都 2階 第3会議室

出席者 安保千秋委員，荒賀一美委員，石塚かおる委員，大東貢生委員，
小野恵以子委員，川中大輔委員，川邊祐司委員，草野政子委員，
國重晴彦委員，澤井早和乃委員，杉原颯太委員，長者美里委員，
長澤敦士委員，野田正人委員，柊あずさ委員，松山廉委員，
山本智也委員 (17名)
江草健オブザーバー

欠席者 雨宮万里子委員，木村友香理委員，佐々木佳代委員，
水野菜々委員，村上恵子委員 (5名)

次 第

- 1 本市挨拶
- 2 共同部会員及び事務局の紹介等
 - (1) 共同部会員及び事務局の紹介
 - (2) 部会長挨拶
- 3 報告
 - (1) 京都市はぐくみ推進審議会について
 - (2) 児童福祉分科会の設置について
 - (3) 子ども・若者に係る総合的な計画検討のための部会の設置について
- 4 議題
 - (1) 子ども・若者に係る総合的な計画策定に向けた市民ニーズ調査・意識調査の実施について
 - (2) 京都市青少年・若者に関する意識行動と思春期保健に関する調査について
 - (3) ひきこもり等の支援に関する関係団体ヒアリング調査について

(司会：高橋 子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部育成推進課担当係長)

司会	<p>平成30年度第1回「青少年育成に関する総合的支援をテーマとした共同部会」を開催する。</p> <p>本日の会議については、市民に議論の内容を広くお知りいただくため、京都市市民参加推進条例第7条第1項の規定に基づき公開することとしている。あらかじめ御了承いただきたい。</p> <p>それでは、開会に当たり、上田子ども若者未来部長より挨拶を申し上げます。</p>
上田部長	<p>(開会あいさつ)</p>
司会	<p>本日お集まりいただいた委員を御紹介させていただきます。</p> <p>(委員紹介)</p>
司会	<p>「京都市はぐくみ推進審議会条例施行規則」第6条第3項において、当共同部会は、委員の4分の1以上が出席し、かつ、その共同部会を構成する各部会の委員がそれぞれ一人出席しなければ、会議を開くことができないこととされているが、本日は、委員22名中、17名の方に御出席いただいているため、会議が成立していることを御報告申し上げます。</p>
司会	<p>本日出席している本市職員を御紹介させていただきます。</p> <p>(本市職員紹介)</p>
司会	<p>両部会の部会長及び共同部会長を御紹介させていただきます。</p> <p>部会長の人選については、「京都市はぐくみ推進審議会条例施行規則」第3条第1項及び第2項の規定により、京都市はぐくみ推進審議会会長の指名によるものとなっており、「青少年活動促進部会」は、山本委員に、「社会的困難を抱える青少年支援部会」は、野田委員にお願いすることとしている。</p> <p>また、本共同部会の共同部会長については、「京都市はぐくみ推進審議会条例施行規則」第5条第1項及び第2項の規定により、会長の氏名によるものとなっており、山本委員にお願いすることとしている。</p> <p>山本共同部会長、野田部会長から一言ずつ御挨拶をお願いしたい。</p>
山本共同部会長	<p>平成19年に「青少年活動推進協議会」の専門委員として関わってから11年になる。</p>

野田部会長	<p>京都市は「青少年問題協議会」を「青少年活動推進協議会」という名称に置き換えて活動してきた。青少年を問題として捉えるのではなく、青少年の活動を推進しようという発想を「はぐくみ推進審議会」でも活かしていければと思っている。</p> <p>両部会が一体となって、様々なことに取り組んでいきたいと思っているので、御協力をお願いします。</p> <p>私は、現在、スクールソーシャルワーカーのスーパーバイザーと子ども若者育成支援の窓口として京都市と関わらせてもらっている。</p> <p>社会的困難について、子ども若者というのは、生まれる前から今まで歴史と育ちを共有しており、その中で感じたしんどいことをどのように縦に繋いでいくか、発達や成長が大事である。</p> <p>縦と横がしっかりと繋がる良い会議にしたいと思っているので、御協力をお願いします。</p>
司会	<p>ここからの議事進行については、山本共同部会長をお願いします。</p>
山本共同部会長	<p>それでは、議事に入る。</p> <p>次第の「3 報告」について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料3「京都市はぐくみ推進審議会について」</p> <p>資料4「児童福祉分科会の設置について」</p> <p>資料5「子ども・若者に係る総合的な計画検討のための部会の設置」を用いて説明</p>
山本共同部会長	<p>ただ今の事務局からの説明について、質問はあるか。</p> <p>(質問なし)</p>
山本共同部会長	<p>続いて、議題に移る。</p> <p>次第「(1) 子ども・若者に係る総合的な計画策定に向けた市民ニーズ調査・意識調査の実施について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料6「子ども・若者に係る総合的な計画策定に向けた市民ニーズ調査・意識調査の実施について」を用いて説明</p>
山本共同部会長	<p>ただ今の事務局からの説明について、質問はあるか。</p>

野田部会長	ひきこもりのヒアリングも業者が行うのか。
事務局	ヒアリングは、業者ではなく、本市職員が直接、関係施設や団体に対して行う。
安保会長	無作為で調査を行うとのことだが、当たりの良い方だと、いくつかの調査対象となる場合もあるのか。
事務局	無作為の調査は重ならないように調整するが、小学生の放課後の調査などは全児童を対象としているので、重なる場合があるかもしれない。
草野委員	性別に関係なく、無作為か。
事務局	基本的には年齢で振り分けるので、おそらく男女同程度の比率になると思われる。ただ、ひとり親家庭の調査は母子世帯の方が多くなる。
山本共同部会長	次第「(2) 京都市青少年・若者に関する意識行動と思春期保健に関する調査について」事務局から説明をお願いします。
事務局	資料7「京都市青少年・若者に関する意識行動と思春期保健に関する調査について」を用いて説明
山本共同部会長	ただ今の事務局からの説明について、質問はあるか。
石塚委員	<p>どれも大切な調査だと思うが、郵送されてきた調査票を返送するという回答方法では、時間に余裕がないひとり親家庭の方や、文字が多いものを煩わしく思っている方から回答が返ってくるだろうか。</p> <p>この調査は、生きづらさを感じている方の意見を聞けた方がより良いと思うので、直接質問して、回答してもらったりする方が、そのような方たちも回答しやすいのではないだろうか。</p>
事務局	全ての調査が郵送ではなく、例えば、母子保健に関する調査は、乳幼児健診に来られた方に手渡し、小学生の放課後の過ごし方に関する調査では、学校の先生から子どもを通じて保護者に配布する方法で行う。ひきこもりの調査は、支援団体へのヒアリングを実施する。
野田部会長	前回調査の回収率がどのようなものだったか、教えてもらいたい。一般的な調査では、3割の回収率があれば御の字だと言われている。

	<p>本人が自覚しているニーズだけに限らず、この調査で本人が答えられないことや、自分が何故しんどいか分からないことに対しても、私たちは取り組まないといけない。</p> <p>一部、言葉の説明があるものもあるが、中学生には分かりづらい抽象的な言葉があるので、中学生にも分かるようなものに修正してもらいたい。例えば、中学生に「政策」と言っても、彼らの中では使わない言葉なので、かみ砕いた表現にするなどの配慮が必要である。</p> <p>13歳から30歳までを対象としたアンケートなので、修正にも限界があるのは理解している。</p> <p>「インターネット空間」について聞くことは大事だと思うが、中学生には違和感のある言葉である。</p> <p>ネット依存の問題は深刻になっており、ネットゲームに課金している事例もあるので、ネットに着眼した質問を設けてほしい。</p>
事務局	<p>回収率は資料6の別紙4に示してあるのでご覧いただきたい。前回実施した青少年に対する調査の回答率は、23.7%であった。他の調査では、回答率が40%を超えるものがある。構成や質問項目を分かりやすくすることが回収率の増加につながると思う。</p>
長澤委員	<p>ネットゲームに1万円以上課金している中高生を知っている。彼らはネット空間と現実とを分けて考えていない。</p> <p>中学生から大人に対し、同じ調査をするのは無理がある。</p> <p>問21について、悩みを誰にも相談する気がない人に対応した回答項目がない。</p> <p>問31について、生活するための金銭目的で性交渉をする人に対応した回答項目がない。</p> <p>問39について、働くことは当たり前で、理由などないと考えている人に対応した回答項目がない。</p>
澤井委員	<p>将来の希望や夢はあるかを聞く質問は必要だと思う。</p>
國重委員	<p>問8について、「クラブ」よりも「部活」に、「習い事」よりも「塾」に変えた方が、中高生には分かりやすい。</p> <p>たばこの質問はあるが、大麻やシンナーなどの薬物に関する質問がないのは、意図的に削除したのか。必要な質問なので、追加した方がよい。</p>
杉原委員	<p>問8について、今の中高生はメールを使わない。SNSに変えた方がいい。</p>

事務局	様々な観点から御意見をいただいた。総合的に質問が多くなり過ぎないようにしながら、内容を検討していく。
山本共同部会長	ここまでに出了意見は、質問の意図と答える側の受け止め方が異なるという大事なものであった。
川中委員	問2について、家族的な関わりをしている方がいるため、「親」ではなく、「保護者」や「養育者」等の言葉にした方がよい。 問20について、セクシャルマイノリティの方もいるので、「好きな異性」を「パートナー」にした方がよい。 質問が増え過ぎるのはよくないことは理解しているが、問6について、「どこで」と聞くよりも「何をしている時に」と聞いた方がよい。
山本共同部会長	問6について、「嫌だ」「しんどい」といったネガティブな選択肢があってもよい。
小野委員	青少年の調査対象は30歳までで、ひきこもり等の困難を抱える人へのヒアリングは30歳代までで間違いないか。
事務局	そのとおりである。
小野委員	困難を抱える30歳代はどのような回答をするのか興味がある。
安保会長	13歳でも分かるような言葉にしないと、彼らは答えない。
大東委員	問31について、複数回答可にした方がよい。 先ほど、セクシャルマイノリティの話があったが、性別の選択肢に「その他」と追加した方がよいのではないかと思う。他の調査との整合性も考慮して検討してもらいたい。
石塚委員	問2について、「親」という表現を変えた方がよいのではという意見があったが、同居していない、死別したなどの理由があるにしても、父親と母親は必ずいるため、「親」のままでいいと思う。
山本共同部会長	調査票が郵送されてきたが、どのように答えたらよいか分からない方には、青少年活動センターに来てもらうとか、答えてくれた方には商品券の様な物をあげるといった取組をしてもいいかもしれない。 京都は国際都市であるのに、日本語の読み書きができない人しか答え

荒賀委員	<p>られないのはいかなものか。</p> <p>保護者調査票について、「成績が遅れている」という表現は適切か。</p> <p>問2について、最初の質問でいっしょに住んでいる人を聞いているから、父母だけではなく、祖父母や親戚を選択肢に追加してもいいのではないか。</p>
山本共同部会長	<p>時間の制限もあるので、次に移りたい。</p> <p>次第「(3) ひきこもり等の支援に関する関係団体ヒアリング調査について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料8「ひきこもり等の支援に関する関係団体ヒアリング調査について」を用いて説明</p>
山本共同部会長	<p>ただ今の事務局からの説明について、質問はあるか。</p>
野田部会長	<p>ひきこもりになるまでは、必ずプロセスがある。</p> <p>不登校になったきっかけや時期、ひきこもりが続いてしまう要因は違う。不登校になってからひきこもりになったケースがあれば、就職してしばらく経ってからひきこもりになったケースもある。</p> <p>不登校やそれ以外になったサインを周囲がキャッチしたのはいつなのか、学校に籍がある時に気付いた点があったのか、知ることができるとよい。</p> <p>従来からある支援システムが、どう関わり、どのように繋げてきたのか、どこかで支援が切れていないか危機感を持っている。京都市の支援システムは手厚いと思うので、新しいものを作るよりも既存のものをしっかりと強くする方が、効果が高いものが作れる。</p> <p>いくつかの施設を経る中で、支援が切れてしまうケースが少なくない。福祉や子ども支援センター等の様々な期間との連携という視点を持ってもらいたい。</p>
山本共同部会長	<p>切れ目ない、縦断的な支援が大切ということである。</p>
松山委員	<p>ヒアリング対象団体について、ひきこもり支援をしていない団体が含まれている。他にも直接的に関わっている団体もあるので、そのような団体にもヒアリングした方がよい。</p>
事務局	<p>そのような団体があれば、教えていただきたい。</p>

山本共同部会長	<p>本日の議事については、以上となる。 改めて御意見・御質問があればお願いします。</p> <p>(質問なし)</p> <p>それでは、本日は閉会とし、事務局に進行をお返しする。</p>
事務局	<p>本日、御発言いただいた他にも御意見等がある方は、配布している質問票を事務局に送付いただきたい。</p> <p>以上をもって、第1回「青少年育成に関する総合的支援をテーマとした共同部会」を終了する。</p> <p>(以上)</p>